

# 令和5年度 年間指導計画

A科:動物科学科 B科:植物科学科 C科:食品科学科 D科:人間科学科 E科:環境科学科

教科	農業	科目	課題研究	単位数	2	学年・学科	2学年・E科
教科書			副教材				

学習目標	<p>○環境科学に関する実験実習に関する技術を習得します。</p> <p>○プロジェクト学習法に基づいた研究活動により、課題解決能力やプレゼンテーション能力を身に付けます。</p>
学習方法	<p>○各自の関心に基づいたテーマ設定を行い、この解決に向けて調査、実験、観察を計画的に実施します。</p> <p>○課題解決に向けて仮説を立て、結果を分析し、その原因や影響を考察するなど研究活動を進める中で論理的、科学的思考能力を身に付けます。</p> <p>○研究発表を行う中で、結果を客観的に整理し、人に分かりやすく伝える能力を身に付けます。</p>

学習評価	評価の観点	評価の観点の趣旨	学期	重み付け	割合	
					調査	調査以外
学習評価	a 知識・技能	農業各分野の将来のスペシャリストに必要な問題解決の能力や自己教育力などの育成するために、農業と環境に関する基礎的な知識・技術を身に付け、環境保全・創造の重要性を理解している。	前期中間	40 %	0	40
			前期末	40 %	0	40
			後期中間	40 %	0	40
			後期末	40 %	0	40
	b 思考・判断・表現	農業や環境保全に関する諸課題の解決を目指して思考を深め、基礎的な知識と技術を基に、課題を適切に判断することができる。	前期中間	30 %	0	30
			前期末	30 %	0	30
			後期中間	30 %	0	30
			後期末	30 %	0	30
	c 主体的に取り組む態度(意欲)	人間の暮らしと環境の関わりについて興味・関心を持ち、課題の探求に意欲的に取り組むとともに、その課題を科学的に捉えて解決しようとする態度を身につけている。	前期中間	30 %	0	30
			前期末	30 %	0	30
			後期中間	30 %	0	30
			後期末	30 %	0	30

学期	単元名(題材)	学習内容(小単元)	評価の観点			単元の評価規準	評価方法
			a	b	c		
前期中間	環境科学実習	専門科目(生物資源・森林環境)について少人数でより深化した実験・実習を行うことで専門性を高めます。	○	○	○	<p>a: 動植物の生育特性に関する知識を身につけるとともに、それらの生物を環境保全に有効に活用する知識を身につけている。</p> <p>b: 環境保全について思考を深め、調査実験から結果を客観的に分析、判断できる。</p> <p>c: 生物資源・森林環境の各分野に関わる地域課題に関心を持っている。</p>	<p>・実習レポート</p> <p>・実習態度</p>

前期末	環境科学実習	<p>専門科目(生物資源・森林環境)について少人数でより深化した実験・実習を行うことで専門性を高めます。</p>	○	○	○	<p>a: 動植物に関する基礎的な知識を身につけ、環境保全や地域産業振興に役立たせることができる。</p> <p>b: 動植物の生育調査を通じて環境要因の影響を調べ、その結果を表現できる。</p> <p>c: 各自のテーマに関する動植物や環境問題・地域産業課題に関心を持っている。</p>	<p>・実習レポート</p> <p>・実習態度</p>
後期中間	<p>環境科学実習</p> <p>盛農祭への対応</p>	<p>専門科目(生物資源・森林環境)について少人数でより深化した実験・実習を行うことで専門性を高めます。</p> <p>・文化祭展示として、その年に自分たちが取り組んだ研究についてまとめ、一般公開します。</p>	○	○	○	<p>a: 動植物に関する基礎的な知識を身につけ、環境保全や地域産業振興に役立たせる知識を身につけている。</p> <p>b: 調査結果を正確に判断し、盛農祭で分かりやすく表現できる。</p> <p>c: 地域産業の環境問題等の課題に興味関心を持っている。</p>	<p>・実習レポート</p> <p>・実習態度</p> <p>・盛農祭</p>
後期末	<p>○専攻班学習</p> <p>○学科プロジェクト発表会</p> <p>○校内プロジェクト発表会</p> <p>○1年間の活動のまとめ</p>	<p>・研究班の専攻実習を行います。「生物資源研究班」「森林環境研究班」</p> <p>・学科内プロジェクト発表会に参加し、各研究班の学習内容について理解を深めます。</p> <p>・専攻班での学習についてまとめ、次年度の目標と計画を立案します。</p>	○	○	○	<p>a: 環境調査に関する基礎的な技術を身につけ、これを活用できる。森や川、農村・都市の環境についてその健全性を図り、良好な状態に保全する方法を理解している。</p> <p>b: 調査研究を通して環境保全に関する思考を深め、その内容を学科発表会で適切に表現している。</p> <p>c: 国内外や身近な環境に関心を持ち、環境保全の方法を探究しようとしている。</p>	<p>・実習レポート</p> <p>・実習態度</p> <p>・発表会の取組</p>